



ネイチャーなら

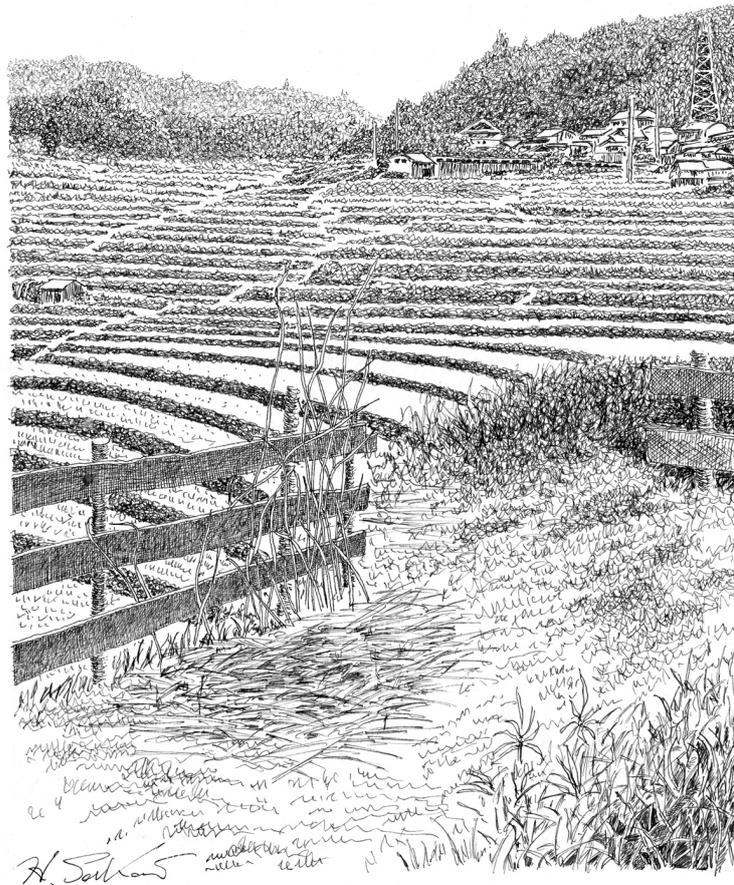
《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2013年12月1日

12月号・第143号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



Contents

会報紙はカラーでホームページに掲載しています。
URL <http://www.naranature.com>

多士済々……………	①	やさしい昆虫講座 ³⁸ ……………	⑩
Monthly Repo.ならやま……………	②	青垣春秋……………	⑪
里山の今……………	③④	俳句百景……………	⑫
目指せ有機栽培！……………	⑤	癒しの散歩道&ならやま茶論……………	⑬
仲間入りしました！・男の料理教室……………	⑤	Galleryならやま……………	⑭
福井一泊研修旅行……………	⑥	ならやま旬景&奈良学クイズ……………	⑮
佐保台ファームの取組み……………	⑦	ならやま景観整備……………	⑯
くろかみやま自然塾芋掘り……………	⑦	行事案内part I……………	⑰
自然教室チームだより……………	⑧	行事案内part II……………	⑱
11月例会(平群の郷を巡る)……………	⑨	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記……………	⑲

里山のお母さん

多士済々

西谷範子さん

顧問 川井 秀夫

『多士済々』も阿部顧問と交互に寄稿しておりますが、登場人物が男性ばかりで、この調子では女性陣から「差別」と言われそうで、今回は勇を奮って旧知の西谷さんに登場して頂きました。



▲ お花畑で柔やかに

この方とは当会創立の頃から同志として多様な活動をしていただいておりますが「いこま棚田」で黙々とお花畑をお世話されていた姿が第一印象だったでしょうか。

今から十一、二年前の草創期に、例会行事の案内役として高円山へ植物観察を兼ね、大文字の火床を見学に行った事を鮮明に記憶しております。

往還する道筋の草花を教えられ、玄人顔負けの博識に驚きと共に、会のスタッフとして意を強くした事が蘇ります。

時を経て、里山ではお花畑は元より、持ち前の観察力で色々とアドバイザー役務められ、なかでも昼餉の時間には、お手製の野趣に富んだ惣菜・ジュースなどの提供を受け、仲間たちの胃袋を満たして戴いております。

自然に徹した食材の確保、加工の手間暇、鮮度の維持、運搬など、多忙な家庭婦人として

▼ 11月例会（朝倉氏遺跡・一乗谷にて）



時間を割き、このエネルギーに驚きを隠せません。正に「里山のお母さん」と、私なりに感得しております。私よりず〜とお若いのに、母親の姿がオーバーラップするのか、エプロン姿が似合うイメージが拭えません。（失礼）

四、五年前になりますが、私の友人が所有する八ヶ岳の別荘へ有志（弓場夫妻・阿部さん・寺田さん・守口さん）の方と避暑に行った事がありました。

朝方、男性たちがテラスで閑談していると「男の人たち何やってんの朝ごはんの手伝いをしなさいよ」と西谷さんから大喝。

食事は女性任せと思っていた男たち、慌てて尻を上げ、パンを焼くやら卵焼きを作るやら食膳を整えるやら、大騒動的一幕がありました。

最近、里山で鈴木さんが彼女を評して『大政所』の尊称を口にされますが、前述の光景を思い出すと、むべなるかなとニヤリとする事があります。

少女の面影を残す優しい彼女に、少し筆が滑りましたかな。これからは『女神』か『観音さん』か、別な愛称を考えますかな。鈴木さん。

仄聞すれば身体条件にハンディをお持ちとお聞きしております。体を厭いながら、いつまでも里山のお母さんとして頑張ってください。

長き夜や素顔は幼溢れしも 秀夫

Monthly Rep. ならやま

- ◆10月21日(月) 曇り 6名
ソバクラブメンバーによる第5地区の刈り取ったソバの乾燥作業。
- ◆10月22日(火) 曇り 7名
ソバクラブメンバーによるソバの脱穀。12月初めの新ソバ祭へ提供される予定。
- ◆10月24日(木) 曇り 20名+6名
前日降雨予想60%により活動は中止。一部の会員がダイコンの間引き、パトロールの実施。林野庁(4名)からの視察に対応し、現地案内。
- ◆10月27日(日) 晴れ 19名+71名
くろかみやま自然塾の子ども達のいも掘り対応。子供たちは大きなイモがたくさん採れて大喜び。クモが怖いと騒いでいた子供もいた。
- ◆10月31日(木) 晴れ 56名+21名
佐保台小学校5年生の稲刈り・脱穀体験。みんなコンバインに乗せてもらって満足。



シイタケのご立派な初物がどっさり

活動基地が冬バージョンとなり、竹林の横へ引越し。

里山Gは、第5地区のスギ・竹の整理。農園Gは、ナスの跡地整理とタマネギ畑の準備。景観Gは、第5地区の除草、池の生物調査、ムラサキハナナ・山野草の移植。ソバクラブは彩りの森のソバの収穫。

- ◆11月7日(木) 曇り 56名
寒くなると火の利用が多くなるので防火担当幹事より注意喚起。また、山作業のベテラン会員から危険を回避する安全作業が強調された。

里山Gと景観Gは、第5地区の整備。農園Gは、サツマイモの収穫と各種エンドウマメ類の播種。EM菌のテスト使用。花・池関係は湿地の除草、ホタルブクロの植え替え、花壇への施肥。ソバクラブはBC近くのソバの収穫・乾燥。パトロール班は前回に引き続きコース案内丸太の再整備。



- ◆11月9日(土) 晴れたり曇ったり 3名
黒米の脱穀作業を臨時に実施。積算日照量不足等のためか、赤米に比べて収量は少なかった。
- ◆11月14日(木) 晴れ 56名
赤米・黒米の販売開始。
里山Gは、カシナガ被害木の伐採を3班に分かれて実施。農園Gは、次年度に向けて野菜畑へのチップ投入。カブトムシの幼虫がごろごろ、新たな堆肥の中へ引っ越し援助。
景観Gは、第5地区の整理と機械整備。佐保自然の森のフラワーロードの咲き終わったコスモスの整理と畝起こし。アガパンサスは管理が行き届くBC花壇へ移植。ビオトープは生物調査、エビは減少傾向にある。
- ◆11月17日(日) 晴れ 11名+19名
県の登大路カフェのメンバーの現地実習体験として竹の間伐。同伴した夫人、子供はならやま里山林での自然観察を兼ねた冒険散策、丸太切り、水生生物観察など。

(木村 裕)



里山の今

＊ならやま花だより＊

吉村さつき

11月14日(木) ベースキャンプ横の柿の木に実がたわわに実っています。美しい姿にしばし見とれてしまいます。里山でも木々の実が赤や黒に色づいています。

ナツハゼはツツジ科のスノキ属の落葉低木で5～6月に新枝の先端に長さ3～4cmの総状花序を出し多数の花を下向きに咲かせます。

葉は葉柄をもって互生し先端のとがった卵状楕円形です。縁は糸の様に細い毛だらけです。果実は10～11月にかけて黒褐色に熟しブルーベリーに似ています。甘酸っぱく生食やジャム、果実酒として用いられます。花が咲いた袴の跡が分福茶釜にそっくりな事から別名分福茶釜の木と呼ばれています。



【ナツハゼ】

【草花】キツネノマゴ、セイタカアワダチソウ、ミゾソバ、イヌタデ、チヂミザサ、ムラサキサギゴケ、ツリガネニンジン、オキノゲシ、オニタビラコ、カタバミ、ホトケノザ、ハコベ、シハイスミレ

【草の実】ツルアリドオシ

【木の花】コウヤボウキ、チャノキ

【木の実】ナツハゼ、コシアブラ、ヒサカキ、マンリョウ、センリョウ、ヤブコウジ、コバノガマズミ、カマツカ、サルトリイバラ、ソヨゴ、アオツヅラフジ

【花壇】皇帝ダリア、百日草、ヒメツルソバ、ホトトギス

＊ペタキン日記 19＊

羽尻 嵩

※ニッポンバラタナゴのことを奈良の方言で「ペタキン」という。

<ペタ尾君のつぶやき>

夏が過ぎ、秋が過ぎ、冬がやってきて、今年も12月はじめに近畿大学に一時引っ越しがあるとの話が聞こえてきました。

今年の夏は特に暑かったですね。水温の上昇からアオミドロが増え、酸欠を心配しましたが、大したこともなくみんな元気に過ごせたようです。地上では、草が生い茂り、人間様は草刈りに追われていたようで、草刈りの機械の音がうるさかったです。それでも稲刈りも終わり一段落したようで、最近では人間様を見ることも少なくなり、静かな日々が続いています。

今年になって、タナゴ池の中は、私たちが脅すザリガニは昨年と比べて数が少なかったけど、小さなミナミヌマエビさんとスジエビさんが増えてきました。また、ドジョウさんも増え、ますます賑やかになってきています。どこからこられたのかシマドジョウさんも見かけましたよ。

先にも言いましたが、12月初めに、私たちの数を調べに近畿大学の学生さんが来ます。

その調査の結果、200匹以上いた私たちペタキンが何匹になったか、5月にこの池に放流された24匹のシマヒレヨシノボリさんたちがどうなったか、産卵でお世話になった11個のタガイさんたちの子供は生まれたのか、また、木津川からヨシノボリさんと一緒に運ばれてきたモツゴさんたちも子供が生まれて大きくなっているのかなどがわかるそうです。



ミナミヌマエビ
おだやかな性格で
そうじ屋さん。
体長2.5cm。

それでは、早いですが、みなさんよいお年をお迎えください。そして、来年もよろしくお祈りします。

バイバイ。

今年の昆虫の消長—ならやま

菊川年明

私が今年のならやまで感じた昆虫の消長は、おおよそ次のようなものであった。

トンボ類では、ウチワヤンマとオニヤンマがよく目についた。例年にない多さであった。ウチワヤンマはならやまの池のような小さな池では発生しないので、平城宮跡の北にある水上池辺りから飛来してきたものと思われる。畑に突き立ててある竹竿のほとんどに止まっていることもあった。オニヤンマもテリトリーを行きつ戻りつしている姿を頻繁に目にした。本種はならやま域内の水路で発生したのではないか。大きな体に似合わず、ささやかな流れで発生するヤンマである。それに引き替え、イトトンボ類は大変少なかった。ピオトープ池の手入れと関係があるかもしれないと思い、事情を知る方に尋ねてみたが、池底は浚えていないので、ヤゴに影響を与えたとは考えられないということであった。ナツアカネは例年より多かった。アキアカネは山から降りてくるのが例年より遅く、気をもんだが11月になると一挙にやってきた。

チョウ類では、ツマグロヒョウモンがすごく増えたという印象を受けた。近年大増殖したチョウであるが、今年はさらに多く、去年の倍増くらいに思えた。このチョウは南方系の種で、昭和時代には関西では珍しかったが、平成になってからは普通種になり、最近のならやまでは超普通種かもしれない。

そのほかではコバネイナゴの増加も著しく、作物の無農薬栽培のよい結果であろう。スズメバチ類は意外に少なかった。

(写真はツマグロヒョウモン♀)



ならやま自然観察路

永淵元弘

これまでに、1コースから4コースをシリーズで順次紹介されていますから、今回は今後のならやま自然観察路をどのような方向付けで対応していくのかといった観点から、過日平成25年10月8日、ならやま自然観察会が行なわれ、私はゲストとして参加しましたので、そのならやま自然観察会実施報告書の中で、会員の皆さんにもお知らせした方がよい部分を報告いたします。

その報告書の中で特に注目するところは、「今後のならやま自然観察会の在り方を巡って」の3項目でした。

A. 子供達に森を歩かせると良い、そのルート作り等進めたい。これは大人でも馬の背を歩く急な坂で、彩の森の南⑭～⑳見晴らしの辻の間の道整備が不可欠と考えます。方法としてルート変更はルートの東側がコクランの生息地で変更は無理ですから、ロープ等の補助工法で安全対策を講じる必要があります。

B. 自然観察の助けになるようもっと木に名札をつけたい、これはパトロール班長木村宥子さんの方で現在計画的に整備されています。

C. 足元の整備で、整備がれたところは鳥観の丘⑭～⑳赤岳の区間、谷の出会⑱～⑳赤岳口の区間、オオタカの辻⑤～⑦104pの区間での笹竹の伐採が完了しています、他に里山Grによる倒木、枯れ木の整備が完了しています。

このならやま自然観察会実施報告のなかで最後に守口京子さんの方から次の三点について貴重な意見をいただきましたので、それを原文のまま掲載したいと思います。

1. もっとのんびりと楽しみながらのならやま活動もあってよいのではないかな。

2. 活動日にたまにはみんなでゆっくりならやまを見て回ることも良いのではないかな。

3. 自然観察を楽しむこともその一つだろうし、何人かのガイドがおればもっと活動を上げられる。そのためにガイド担当者を育成して行くべきだろう。



目指せ有機栽培！

6年前の晩秋、「ならやま」に豌豆の支柱にできそうな竹を探しに行った。すると20数人の人達が、笹藪を刈り払い機で刈り取ったり、畑の整備などに精を出していた。今の駐車場付近から東は3m近くもある笹藪で覆われ、昔日の里山とは全く想像もつかない風景が広がっていた。BCから西側のペタキン池周辺は、セイタカアワダチソウやホタルイなど多くの雑草が繁茂し、小学生の頃に父親に連れられて、山仕事に来ていた時の面影は、どこにも残っていない。

赤松や黒松は殆ど枯れ、コナラなどの雑木が占有してしまっている。松茸がよく採れた秘密の場所付近に足を踏み入れてみたが・・・。今の鳥観の丘付近からは眺望が開け、そこに登ってくると清々しくなり、一人で山遊びに来たものだった。リフレッシュするには、格好の場所でもあった。半世紀以上もの間、放置されてきたために、荒廃の一途を辿ってきたのであろう。

12月の中旬に入会。最初に里芋の収穫作業を手伝った。よくぞこのような土壌でと・・・。早速、近所の篤農家の方に、その様子とともに「会の皆さんは有機栽培を目指している。」と言っておられるが、どのような改良方法があるのかなど尋ねてみた。先ず第一に腐葉土、次に厩肥を鋤込むことだとのこと。幸い腐葉土の積み込みは、既に取り組んでおられた。

その後、JAの会合で造園屋さんに出会い、チップ（剪定した樹木の枝や葉の粉碎したもの）を無償で提供していただけることになった。また、厩肥は、以前から植村牧場で頂いていたこともあり、定期的に大量に搬入してもらえかどうかをお願いしたところ、快く引き受けて頂けた。牛糞は、N成分が多いように思われるが、鶏糞などと違い少なく、土壌改良に役立つことが解っていた。但し、約半年間程積み込みをして、おがくず（外材には塩分が含まれている）の塩分を除去することをしなければならない。

水田や畑の復活とほぼ同時進行で、チップや厩肥の鋤込みを繰り返してきた。チップの搬入量は、2トントラックで50台分は超えている。

当初15PSのトラクターで耕耘した時、上下振動が激しく、運転席にじっと座ってはいられなかった。

丸6年が経過し、粘土質の土壌もようやく野菜類の栽培に適するようになりつつある。今後は、池田敬二郎さんのご指導を仰ぎながら、EM菌を活用した栽培方法にも研修を深めていきたい。

秋田造園・植村牧場・竹内養鶏場さんのご厚意に甘えつつ、皆様方に感謝の念を込めて、有機栽培の推進に努めたいと思っている。

（鈴木末一）



仲間入いしました！

宝田史子

定年を迎え、しばらくは自由な時間を満喫！孫が生まれ、バタバタと忙しい日々も過ぎ、折角の時間を有意義に使いたいと思い、ボランティアセンターを訪れ、この会を紹介していただきました。

和気藹々と楽しく活動されているステキな会に仲間入りさせていただき、とても嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。

男の料理教室

池田敬二郎

10月から昼食時の味噌汁を、月一回男の会員で担当する事になった。ベテランの女性には叶わぬまでも、男の豪快さと、或一面のきめ細やかさを発揮し、ならやま農園の食材をフルに使用、いかに美味しい味噌汁に仕上げるか・・・。

料理好きメンバーが集い奮闘中です。乞うご期待！！

第1回の、ならやまに時ならぬサンマの塩焼き（阿部会長カンパ）は、全員大喜び！！あわよくば、月1回位魚の干物でも、カルシューム取らせたいなあー

皆元気モリモリよく働いてくれませー！！

福井一泊研修旅行

10月例会報告

日時：10月28日(月)～29日(火)
 場所：福井県池田町方面
 行先：第1日目 一乗谷朝倉氏遺跡、農事法人「コムニタ」
 第2日目 白山 平泉寺、県立恐竜博物館、中池見湿地

参加者：31名

幹事：阿部、八木、奥野、寺田

今年度の一泊研修旅行は、福井県池田町の農事組合法人 農業資源開発協同体「コムニタ」を訪ねることになり、この周辺の観光地を巡る旅となりました。



様々な変化に富んだ場所を観光し、天気にも恵まれた楽しい二日間でした。

日間でした。

〈一乗谷朝倉氏遺跡〉

一乗谷は、福井市街から10kmほど離れた地にあります。1573年に織田信長に滅ぼされた朝倉氏一族の城下町でした。全域焼き尽くされ長い年月の間に地下に埋もれました。昭和42年から発掘され、今も調査が続いているとか。



分かりやすい、熱のこもった地元ボランティアガイドの案内で、朝倉義景館

跡、一族の庭園跡、復元された武家屋敷・庶民の町屋を見学しました。歴史の興亡に思いを巡らすに十分な景観と小春日和のうらかな日差しを楽しんだ一時間半でした。見学時間がもっとほしいという声が多く聞かれました。

〈農事法人「コムニタ」〉

農業協同組合 青年部の方々が、地域の発展と地元農業の振興を図るため、17年前に立ち上

げた農業法人です。事務局長の佐野さんからその歴史と現状をうかがいました。

我が会の活動に関係する事は少なかったのですが、現在の国の農業政策の問題点（減反政策、農業戸別所得補償など）に対して色々考えさせられたひと時でした。

〈白山 平泉寺〉

養老元年(717年)に開かれた広大な敷地にある名刹。周辺の木立には時折、熊も見かけるといふ深山にあります。参道の長い石畳、



杉木立、特に敷地内全体と云っていいほどに「青苔」が密生し

ていて大変美しかった。別名「苔寺」とも呼ばれているとか。このボランティアガイドの案内もわかりやすく、今回の旅の中でも大変人気の高かった場所でした。

〈県立恐竜博物館〉

勝山市にある日本を代表する恐竜博物館。同地での1989年からの発掘調査で、多くの恐竜の骨化石が採集されたのを機に設立された。広大な館内に世界中の恐竜が、実物化石、実物大骨格模型、動く模型などで立体的



に展示されていました。恐竜好きには、たまらない博物館と感

じました。

〈中池見湿地〉

敦賀市内の東部にある25haの湿地。多様な生物の宝庫で、ラムサール条約湿地として認定されているとか。晩秋の枯れた景観で、小雨がぱらつきだし残念でした。気候の良い時期なら、素晴らしい自然観察ができるだろうと感じさせる湿地でした。

(寺田 孝)

佐保台ファームの取組み

稲刈りの鎌の刃音の昂ぶりぬ

10月31日、秋晴れのならやまに子供達の元気な声がこだまする。たわわに稔った稲穂に子供達は目を輝かせる。

慣れない手つきで一株一株刈り進む。稲掛け作業、続いて、コンバインでの脱穀作業を体験した後、運転席に座って記念写真……。満面に笑みを浮かべつつ……。

～ 子供達の感想文を紹介します ～

- ★みんなの力でお米が出来ることが解った。
- ★稲刈りは簡単簡単と思っていたが、以外と難しかった。
- ★毎日普通にごはんを食べているけど、大変なんだ。
- ★感謝の気持ちを忘れずに食事をしなければと思った。
- ★お米の一粒一粒を大切にしていきたい。
- ★足踏み脱穀機の仕組みが理解出来ました。
- ★これからは、ご飯は絶対に残さない。
- ★稲の株が日数が経つにつれて大きくなっていたのを見た時、とても嬉しかった。
- ★いつも給食で味がないように感じたお米が、今では違うような気がします。とてもお米が食べたくくなりました。
- ★生のお米を食べてみるとコリコリして、ちょっと甘かった。
- ★毎日、佐保台ファームの水田を世話してもらい、とても嬉しかった。有り難うございました。
- ★コンバインに乗れた時が一番嬉しかったです。
- ★機械だけではなく、人の手が加わり、美味しいお米が作られていることが解りました。



(鈴木末一)

くろかみやま自然塾・芋掘り

2013.10.27

前日までの、台風週間も過ぎ去り、天候に恵まれ、芋掘りのイベントが始められました。



参加者は、くろかみやま自然塾 71名(こども=59名・大人=12名)ならやまスタッフ19名の総合計90名の芋掘り作業でした。

黒髪山キャンプフィールドより、6班編成で列を崩さず元気一杯で我がベースキャンプに来られました。お迎え後、即芋掘り作業開始です。いも畑では、鈴木さんより手順説明を受け、期待していた芋掘りが始まりました。初めての体験の子供達が多く見受けられ、土の中より顔をだす芋に感嘆の声が周辺で起こっていました。今回は、大物が目立ちました。多いに楽しんでいただいたと思います。芋掘り後、石拾い作業も楽しんでいただきました。参加者・スタッフ短い時間でしたが、事故・けがもなく終わる事が出来ました。ご苦労さまでした。

……感想をいただいたところ……

子供達は、芋のつるから大きなお芋が4つ5つと付いて出てきてびっくりしたと感想をいただきました。

(田中 修)



自然教室チームだより

1 1月の自然観察会
「明日香の植物を訪ねて」 実施報告

1 1月6日 自然教室チーム自然観察会は、飛鳥里山クラブの吉田ミドリさんの案内で、秋の明日香の植物観察をしました。

近鉄橿原神宮駅からバスは、明日香の古い家並の続く村の中をくまなく走って石舞台へ。畑にはコスモスがあふれるように揺れ、サクラ、カエデ、ハナミズキは“紅葉は今でしょう”と真っ盛りです。すっきりと晴れわたった秋空の下、石舞台の近くに咲く赤い「ソバ」の花を見ながら、昼食予定の上宮寺までしゅっぱーつ。

今回はいくつ自然の不思議にビックリしたことか…

まず「アキニレ」の実がオクラのようなネバがあることを口の中で納得。小さくソツと咲いている「コブナクサ」は染色に使われ、黄八丈にも活用されています。

いろいろな「むしこぶ」にもビックリ。「ノブドウ」や「ヌルデ」、なかでも「アオキ」は未成熟に見えた赤い実が「アオキミフクレフシ」と言う「むしこぶ」で、タマバエの幼虫が住んでいます。

「上居」は「じょうご」と呼ぶ地名ですが、そこから山の中へ。家の土手につたう「テイカカズラ」の葉をソツと千切ると、中の粘液が延びて「すだれ」になりました。これは小学生に伝えるいい教材です。「イヌマキ」の種から芽が出ています。胎生種子というそうです。

狭い上宮寺の庭には、コウヤマキ、チョウセンマキ、センリョウ、ヤツデ、ナンテン、サルスベリ、アオキ等樹種が豊富。「ツチグリの種が飛ん



だあと」がありました。爽やかな風の中、クスノキなどの大木の下での昼食は最高！ デザートは太陽の木漏れ日つきの秋風です。午後の観察でも、豊富な野草の名前でメモ帳は

いっぱいになりました。特に吉田さんは、私たちに「ヤブマメ」の地中豆を説明する為に、スコップでつるをたぐり、根を掘ること2ヶ所。私たちも手伝って見つけた地中豆。自然の不思議な力と生命力の強さを感じました。草木は、私たちが考えもつかないいろいろな方法・手段で、次世代に生命をつないでいます。私たちも、次世代に引き継いでいく日常生活を、もっと大切に考えていかないと…反省です。

吉田さんの話は、虫やチョウチョ・トンボ…と話題が尽きる事無く…春の観察の楽しみを残して終わりました。本当に楽しかった！

春の草木の観察会は、みんなで行きましょーうね !!

観察した植物は130余 (川口 ゆみ子)

1 2月の自然観察会
山の辺の道を歩く

下記により実施いたします。

参加は自由です。自然観察に興味をお持ちの方はだれでも奮ってご参加ください。

1. 日時：12月17日(火) 9時45分～15時予定
2. 場所：山の辺の道(三輪～崇神天皇陵)
3. 内容：初冬の山の辺に木(草)の実はまだある？
4. 持参物：昼食、飲み物、観察用具、雨具
5. 集合：JR三輪駅 9時45分
6. アクセス：
 - ①JR奈良から
奈良9：06⇒天理9：20⇒三輪9：32
 - ②近鉄西大寺から
西大寺8：48⇒天理9：07⇒①のJR天理
 - ③JR桜井から
桜井9：38⇒三輪 9：41
7. 担当：小田、倉田

1月の自然観察会のお知らせ

下記の通り実施します。自然観察に興味をお持ちの方は是非ご参加ください。参加は自由です。

1. 日時：1月21日(火) 10時～14時頃
2. 場所：奈良公園
3. テーマ：冬の奈良公園の植物を訪ねる
4. 担当：池田、倉田

11月例会

平群の郷を巡る

11月12日。朝方の寒気に冬装束で防寒態勢。風もなく穏やかな冬日に、寒さも杞憂に終る。

平群（へぐり）とは語音が奇妙だが、古代は辺の国（へのくに）と呼ばれ、北は生駒駅、東は平端駅まで、現代では西に生駒山地、東に矢田丘陵に挟まれた生駒谷の領域を平群町と呼ばれている。

6世紀から7世紀の武烈朝に豪族 平群氏が権勢を誇り、大和朝廷の魁としてこの地を本拠地とする。

先ず、平群族長が眠る烏土塚古墳を訪ねる。ここ平群には70基余りの古墳を有するが最大のもので、当時の権勢を伺う事ができる。

田園地帯を抜けて、旧 石床神社。越木塚と言う高台に、神殿も拝殿もなく朱の鳥居が迎えて呉れる。ご神体は巨大な陰石。神霊は後述の新 石床神社に遷座されているが、子孫繁栄の陰石信仰が盛んであったと言う。同行の岩本先生もこんな陰石を見たのは初めてと、驚きの表情をされる。

ぐるりと裏山に入ると、新 石床神社。寂れた様相ながら、神在す畏れを実感する。

この社に併存する消渴（しょうかち）神社が面白い。消渴とは女性の下の病気を指す。江戸期から明治にかけて、京都の芸者、遊女たちが参詣に列をなし、茶店が沿道に並び、華やかな賑わいを見せたと言う。

銀杏の黄葉、桜の紅葉が盛り。中央公園で昼食。ここは筒井 順慶の出城として、二つの城塞のあった所、軍師 嶋 左近（後に石田三成の軍師として関ヶ原で戦死）が、信貴山に籠る松永弾正を討伐した最前線と言われている。



平群神社。土地の産土神、式内社だが鳥居の形から、由緒ある古社である事が伺える。

万葉歌人が残した歌が幾つかあるが、貴人たちが相聞歌を交わしたであろう竜田川沿いを暫く歩く。竜田姫とは秋の季語だが、変わらぬ瀬音に往時を偲ぶ。

この町の主産物「寒菊」の畑地を抜けると檜本神社。主神は雷の神様と言う。奇形の大きな石灯籠が面白い。お寺の五輪塔に似る作りに因果関係があるのだろうか。研究課題だ。

最後に長屋王墓・吉備内親王墓を訪れる。皇位継承に絡み謀反の疑いありと、一家は謀殺される悲劇の人として知られている。岩本先生の卓説によれば、碁敵の負けた用人が密告したのも一因だったとか。私も碁を打つが感情が暴発すると碌なことはない。剣呑、剣呑。

平群を歩くとキリが無い。近い機会にまた歩いて見たい。歴史の暗部を知ると現代に生きる幸せを感じるが、また教えられる事にも限りがない。

ご参加の方々（21名）ご苦労様でした。また世話役の寺田・弓場氏に心より感謝申し上げます。

反省会はいつになく皆さん饒舌で大いに盛り上がった事を付記しておきます。

（川井 秀夫）

やさしい昆虫講座③⑧ 私たちは虫の世界の警察官 木村 裕

動物の世界は、一つの動物のみが異常に増えないように制御機構が働いています。ただし人間と鹿のみは例外的に繁殖しているようですが。虫の世界でも増殖抑制システムがあります。天敵という警察組織？です。担当官がさぼっていたのか、今年はその抑制作用の働きが不十分で毛虫が大発生しましたが、これも時間が経過すれば収まってくることでしょう。

天敵には捕食性昆虫と寄生性昆虫があります。捕食性昆虫は、テントウムシのように餌となるアブラムシを頭からムシャムシャ食べたり体液を吸い取ったりします。一方の寄生性昆虫は餌となる昆虫の外皮に食らいついたり、体内に住みこんで内部の臓器を食べたりします。

捕食性昆虫と言えばアブラムシを食べるテントウムシを思い浮かべることでしょう。ヒラタアブの幼虫、クサカゲロウなども同じようにアブラムシを餌としています。カマキリの小母さんやトンボの小父さんも虫を餌としています。虫なら害虫益虫無関係に何でも片端からたべまくるので益虫としての貢献度はテントウムシに比べ劣ります。



アオムシの有力な取り締まり官はアシナガバチで、力強いあごでアオムシの頭に齧り付き、噛み砕き丸めて団子にします。これは巣で口を開けて待っている子供達のお土産になります。家庭菜園をされている皆さん、キャベツ畑にアシナガバチがやってきた時には怖がらずに歓迎し、お茶の一杯も差し上げてください。

キャベツのアオムシに写真のような黄色の塊がくっ付いているのを見たことはありませんか？これはアオムシサムライコマユバチと勇ましい名前がついたハチの繭です。アオムシにとっては実に嫌な虫です。



長さ数ミリの非常に小さなハチの母さんがまだ幼少のアオムシの体に注射をするように産卵管を突き刺して数十個の卵を体内に産みこみます。孵化したハチの子は、知恵を絞ってアオムシ自身の成長にあまり関係のない部分を食べるよう心がけますのでアオムシは順調に生長します。アオムシがぼちぼち蛹になるかとする頃にはハチの子も成長を終え、ある日一斉に外へ這い出します。その場に立ち会いますと、アオムシが子供を産んだような感じにも見えます。兄弟そろって外に這い出したハチの子は直ちに黄白色の繭を作って蛹になります。ながらく無償でハチの子を体内で養っていた親切なアオムシは蛹にもなれず、蝶にもなれずそのまま死んでしまいます。可哀想ですね。このハチがアオムシの大発生を抑えています。



このような体内に住み込む居候を寄生性昆虫と言います。ハチの場合は寄生蜂、ハエの場合は寄生蠅と呼んでいます。

アオムシサムライコマユバチは集団寄生でしたが、体がもっと大きな寄生蜂や寄生蠅では一匹の大家に1～数匹の店子しか住めません。多すぎると餌不足で共倒れとなり、母親の責任が問われます。産卵にはすでに店子が住んでいるかどうかの見極めが大事で、母親も空き家探しが苦勞の種です。



「壬申の乱と鷗野讃良皇女」

歴史文化クラブ 古川 祐司

歴史文 9 月の研修会は「壬申の乱」を取上げたが、歴史学者の倉本一宏氏は、鷗野讃良皇女がその原因だったとされる。彼女を主役に壬申の乱とその後について、足取りをたどってみたい。

1、出生は「乙巳の変」の年

645 年に出生。蘇我宗家が滅亡した年である。母は越智娘、姉は大田皇女、弟の建皇子（夭折）の 3 人兄弟。姉や弟は祖母の斉明帝に可愛がられたようで、姉は斉明陵の傍らに葬られた。鷗野讃良（以下鷗野と略記する）にはそういう記述はない。5 歳の時、祖父の蘇我倉山田石川麻呂は謀反の疑いを掛けられて自殺、心を痛めた母も 7 歳の時死去。政争の冷酷な現実は、幼い鷗野の心に深く刻み込まれたことであろう。

2、少女期を河内馬飼いの里で過ごす

名前は河内国讃良郡鷗野邑の地（現在の四条畷市周辺）に因むと思われる。古代河内湖の北岸の一角には、5 世紀以降、新羅系の馬飼いの集団が定住する（欽明紀）。（天武紀には「河内馬飼造」の記述がある）。この地では乗馬にも親しみ野性的で活発な女性に育ったのであろう。

3、壬申の乱での「鷗野讃良」の決断

・13 歳で大海人皇子の妃となり、18 歳で草壁皇子の母となる。天皇位の継承を巡って大海人皇子が父天智天皇と対立するや、吉野に隠遁する夫に妃の中でただ一人従い、運命を委ねる。

・鷗野 28 歳「壬申の乱」夫と共に謀り戦う。大海人皇子と共に戦を謀り、軍勢と共に進み、遂に勝利する。一日 70 km に及ぶ過酷な行程を耐え抜く体力は、少女期に培われたものだろうか。草壁の大王への道を拓く戦でもある。吉野～伊勢は天武・持統政権誕生の聖地となる。

4、皇后「鷗野讃良」の戦い

・鷗野 29 歳（672 年）、天武の即位と同時に皇后となる。大乱後の人心の融和を図り、天皇中心の「皇親政治」を推進する天武の片腕として、律令国家を目指す。「皇后、初めより今に至るまで天皇を佐けまつりて天下を定めたまふ」（持統称制紀）

・鷗野 37 歳、念願の草壁皇子の立太子が実現する。だが大津皇子は、才能に秀で天智にも愛された最大のライバルで、天武も重用した。

鷗野は、凡庸で目立たない草壁皇子の補佐に「中臣不比等」を起用し、爾後、信頼で結ばれる。

5、智謀の忠臣「中臣不比等」と共に

壬申の乱では中臣一族はすべて近江方だった（右大臣の中臣金は死罪となった）。当時 14 歳の不比等は、「避く所のことあり、すなわち山科の田辺史大隅らの家に養う」（尊卑文脈）と伝えられ、隠忍の時を送っていた。当時不比等は蘇我連子（蘇我倉山田石川麻呂の弟）の娘婿を娶っており、鷗野讃良とは母方の血に繋り心許せる味方だったろう。不比等は父の鎌足同様、政治の表裏に辣腕を発揮し、草壁・軽（文武）・元明・元正・首（聖武）と皇統を支え続ける。

・鷗野 42 歳（685 年 9 月）天武天皇が薨去すると時を移さず 10 月、大津皇子を謀反の罪に問い抹殺する。非情なバトルロワイヤル的一幕である。当然のように鷗野は皇后として政治をとる（称制）が、3 年後に草壁皇子は 28 歳で病死、孫の軽皇子（後の文武天皇）が残される。

6、鉄の女帝「持統天皇」誕生

・46 歳（690 年 1 月）持統天皇即位。高市皇子を太政大臣に、「飛鳥浄御原令の施行」「庚寅年籍の編成」「藤原宮への遷都」と律令国家の完成に向かって着実に歩を進める。この時期から、34 回の「吉野行幸」が始まる。旗揚げの地、立国の聖地を訪れたのは、追慕の念もさることながら、天武と共に進めた律令国家事業の継承者「持統」を繰返し顕示する必要があったのだろう。

・53 歳（697 年）14 歳の軽皇子（文武）に皇位を譲るが、史上初の太上天皇として実権を保持。

・56 歳（700 年）曾孫の首皇子（後の聖武）が誕生、その翌年には「大宝律令」が公布。皇統の維持と律令国家の完成を見届け、702 年 12 月崩御。遺言により、天皇では初めての火葬を指示、遺骨は天武天皇檜隈大内陵に合葬される。

（岩本次郎さんの「歴史9月研修会資料」を参考にしました）

今回は、去る十月二十八・九日、福井一泊研修旅行の際に『私の一句』に投句された方々の名句を総覧しました。

コムニタも我がふるさとと同じ秋 青木幸子

柿熟れて古民家ぼつり中池見 阿部和生

越前の竹の童女に秋菫 大澤教男

竹人形の黒髪揺るる秋の雲 奥野美紗子

親子獅子咩もつ毬は子のみやげ 木村宥子

今や昔一条谷の薄紅葉 木村 優

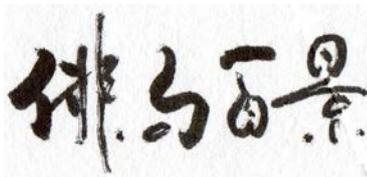
秋の日の眼にあざやか苔の色 川岸美子

緑青の石は苔むす山の寺 川口達夫

浮雲や色ながら散る越のくに 倉田 晃

芒穂に啄むやうに群雀 竹本雅弘

もみじ葉の湯舟に映す越のみち 羽尻 嵩



監修 川井秀夫

越前に落葉の舞ふや竹人形 藤田秀憲

霧深かし昭和のポスト山の宿 古川祐司

一条谷礎石に滑る秋の風 坂東久平

中池見にふるさとの秋懐かしく 水本遼真

金堂の匠のわざも霧の中 八木順一

枯れ芒雀翔びたつ越のくに 弓場厚次

秋深しいにしえ偲ぶ平泉寺 和田啓志

盛衰の一条谷に霧涌けり 西谷範子

湿地池みぞそばの花咲き乱れ 勝田 緑

山霧の一条谷の眠りかな 川井秀夫

朝倉の滅びの石や虚 むなしぐり 栗 川井秀夫



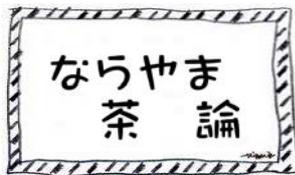
癒しの散歩道

谷川 萬太郎

更け行く晩秋のララバイ



- (1) つい昨日までの出来事が嘘のような冷やかに澄んだそら
 寒い北風と凍える星雲の彼方に消えた小さな秋の子守歌
 やがて密やかに迫りくる冬の衣ずれの音が聞こえてくる
 哀しみに濡れた秋雨よ静かに季節の幕を下ろす時が来た
- (2) 肌寒い薄日零れる狭間に見た新しい季節の小さな落とし子よ
 時節を遅わせた花が枯れ綿帽子が似合う冬の朝が顔を出す
 吐く息の白さに揺れながら遠く童の声が空に霞みて消える頃
 真冬の寒さは雪を運びて山里はわが身を白装束に身を包む

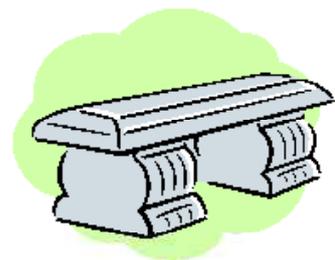


「故障者リスト」

竹本 雅昭

ベンチ：あれ！旦那久し振りじゃありませんか。
 旦那：ウーンそうなんだ、70代になった途端医者通いが多くてね。
 ベンチ：それはいけませんね大事になすって下さいよ。
 旦那：ありがとうよ、健康には自信あっただけにガックリさ。それに比べあんたは丈夫で長持ちしそうや。
 ベンチ：え、奈良の大イベント用に、丸太とボルトでガッチリと造作してもらったお蔭で、大勢の方に利用してもらいました。
 旦那：そりゃあ羨ましい限りだ、里山の人々も大いに感謝したはる。
 ベンチ：旦那はこれからどうなさるつもりで。
 旦那：その事よ、わしも早く良くなって老人力をとってたんだが。嫁はんも、あれもこれもちゃんと症状を言わな

あかんよと、付き添ってのご注意有難いことです。一度は保険証を忘れて手間取ったりで難儀ですわ。
 ベンチ：のんびりあせらんと出来る事からしやはったらよろしいやん。
 旦那：おゝきにおゝきに。昔「亭主元気で留守がいい」と流行ったことがあるが、悔しいかぎりや。
 ベンチ：調子いい時には里山のあったかい豚汁で元気出しなはれ。
 旦那：うれしいこと言うてくれるさかい涙がでるわ。



Gallery

ならやま



◀ 撫子

- 水彩画 (山本妙子) 「里山の秋たち」
- 墨彩画 (羽尻 嵩) 「ポインセチア」
- オイルパステル画 (有元康人) 「撫子」
- 陶芸 (小島武雄) 「あくび猫」
- クラフト (大澤教男) 「クリスマス」
「スキー」

▼ 里山の秋たち



▼ ポインセチア



▼ クリスマス (松ボックリとドングリ)



▼ スキー (松ボックリ)



▼ あくび猫





ならやま旬景

ならやまの秋

昆虫や草花が心を癒してくれます
秋の稔りに恵まれ

芋掘り、ソバの収穫、稲刈りに精を出しました

▲リスアカネ

▼アキグミ



▼アサギマダラ



▼ハヤトウリ



▼フユイチゴ



▼ハラビロカマキリ

(獲物に逃げたれたところ)



▼皇帝ダリア



▼ソバの収穫



▼稲刈り



▼芋掘り



奈良学クイズ

【問】 奈良のシンボル「東大寺」についてお尋ねします。
三月堂（法華堂）の修理が終わり、東大寺ミュージアムから、
本尊が復帰されました。

問1. この秋には本尊仏像の人事異動が行われましたが、下記塔頭御本尊をお答え下さい。

- (1) 三月堂（法華堂）
- (2) 四月堂（三昧堂）
- (3) 東大寺ミュージアム

問2. 聖武天皇が創建されたときの東大寺の正式名称をお答え下さい。(漢字10文字)

【応募方法】 メール

FAX

応募締切

:12月3日

ならやま景観整備

活動予定日

12月	5 (木) 26 (木)	12 (木)	19 (木)
1月	9 (木) 30 (木)	16 (木)	23 (木)

- ◆ 場所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林 [ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に広がる里山林地]
- ◆ 集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

アクセス

- ① JR平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
 - ② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場
8：27発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場
8：38発JR奈良駅行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」
で下車 徒歩7分



- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）
- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。
- ◆ 連絡先：木村 裕



12月5日 新蕎麦祭り

- <里山Gr> カシナガ侵入コナラ伐採
- <農園Gr> 大根等の収穫、里芋予定畑の整備
新蕎麦祭り
- <景観Gr> B.C.、彩の道草刈り、竹きり
(12月2日) 近大班によるタナゴ池の水抜きと
全生物調査（午前）

12月19日

- <里山Gr> カシナガ侵入コナラ伐採
- <農園Gr> 里芋収穫、慈姑収穫、
豌豆支柱準備、など
- <景観Gr> たんぼ周辺整備
皇帝ダリア・アヤメ刈り取り
池の整備

12月12日 収穫祭（芋煮会）

- <里山Gr> カシナガ侵入コナラ伐採
- <農園Gr> 芋煮会、大根などの収穫
- <景観Gr> BC周辺整備、倉庫整備
ならやま池の生物調査

12月26日

- <里山Gr> カシナガ侵入コナラ伐採
迎春準備
- <農園Gr> 迎春準備、里芋収穫
豌豆支柱準備、など
- <景観Gr> 機械整備、迎春準備
畝土寄せ、霜囲い
ならやま池の生物調査





行事案内 part I

12月例会 秋季ハイキング 紅葉の「正暦寺」へ歩く

ちょっと紅葉の時期を外していますが、落ち葉を踏みしめて田園風景と古寺を巡りませんか。ハイキングの後には忘年会が待っています。

- ①日 時：12月9日(月)
- ②目的地：正暦寺
- ③集 合：近鉄奈良駅 奈良交通バス停
3番乗り場 10時30分集合
10時36分の天理行きに乗車(時間厳守)
- ④コース：8.6km
近鉄奈良→(バス)→森本 →弘仁寺 →
正暦寺 →円照寺→(バス)→近鉄奈良
- ⑤準 備：弁当、水筒、他軽ハイキング用品
- ⑥費用 バス運賃 近鉄奈良→森本 380円
円照寺→近鉄奈良 330円
拝観料 弘仁寺 200円 正暦寺 500円
- ⑦担 当 境 寛・八木 順一



来年度「例会」希望行き先募集!

日頃は、「例会活動」にご参加、ご協力をいただき誠に有難うございます。

新年度の「例会年間計画」を立案するため、11月の幹事会で「年間月別テーマ」が決まりました。これを基に、12月末までに「年間計画1次案」を立案いたします。

つきましては、「行き先」などについて、できるだけ皆さまのご希望、ご意見などを参考にし、立案したいと思います。どうかよろしくお願ひします。 例会総括担当 寺田 孝

歴文クラブ 12月研修会のご案内

12月の研修会は「奈良市内の見学と座学」です。午前の部は、五劫院と東大寺ミュージアムを訪ね、午後の部は、1時より中小企業会館の会議室で座学と懇談会を行います。(雨天でも実施します)

- * 日時 12月14日(土) 10時
- * 集合場所 近鉄奈良駅行基広場

・五劫院。鎌倉時代の重源上人の開基で、ご本尊の五劫思惟阿弥陀仏坐像は秘仏です。上人は源平の争いで焼かれた大仏殿を復興した人物として有名です。また、ここに葬られている公慶上人も、焼失した大仏殿を江戸時代に再建しました。東大寺復興に力を尽くした2人の高僧を偲んでみたい場所です。

・東大寺ミュージアム。「東大寺の歴史と美術展」では、奈良時代から江戸時代にかけての被災と復興の歴史が展示されています。(入館料は奈良市老人手帳の持参者は無料です)

・座学(1時~4時)中小企業会館会議室にて(テーマ)

「日本の仏教について」 川井秀夫
「後期古墳時代の天皇陵の変遷」 坂東久平
「来年度の活動のテーマと方法について」

*連絡照会先：古川 祐司

26年度例会年間月別テーマ

月	テーマ
4月	春季(お花見)ハイキング
5月	自然観察会Ⅰ(自然教室チーム)
6月	歴史・文化探訪Ⅰ(歴・文クラブ)
7月	ウォーキング(健康歩き)
8月	夏季自然研修会
9月	軽登山
10月	一泊研修旅行
11月	自然観察会Ⅱ(自然教室チーム)
12月	秋季・忘年ハイキング(忘年会併催)
1月	新春講演会
2月	冬鳥探鳥会
3月	歴史・文化探訪Ⅱ(歴・文クラブ)



行事案内 part II

「新蕎麦祭り」の知らせ！

いよいよ新蕎麦のシーズン到来です。

昨年、切り拓いた第5地区の処女地にも蕎麦がしっかり実をつけました。皆様のご協力で、刈取り、脱穀、選別と手塩に掛けて、立派な新蕎麦粉に仕上がりました。



当日は早朝から蕎麦文化クラブのメンバーが、腕によりをかけて打ち上げます。正真正銘ならやま産、無農薬・有機栽培の粉で「挽きたて、打ち立て、茹で立て」の「三立て蕎麦」を存分にご賞味いただこうと、関係者一同、大いに張り切っています。どうぞご期待ください。

- ◆日時：12月5日(木) 12時～1時
 - ◆場所：ならやまBC 参加費：300円
 - ・数量限定持帰り用(2人前分500円)
 - ・蕎麦の器、箸など各自ご持参ください。
 - ・水を多く使います。お持込み歓迎します。
 - ・活動日につき、アルコールはありません。
- ならやま・そば文化クラブ 古川祐司

忘年会のご案内



今年も忘年会のご案内の時期となりました。それにしても早いものですね。私だけでしょうか。全会員の皆様、お時間が許せば是非ご参加ください。楽しく、飲み、食い、語りましょう！

- ◆日時：12月9日(月) 16:30～18:30
 - ◆場所：和ダイニング花小路 0742-23-9551
奈良市小西町23 (花小路の2階)
- *近鉄奈良駅から小西さくら通り入る50m右側。

ならやま名物 芋煮会&大根焚き

- ◆日時：12月12日(木) 正午～
- ◆会費：無料 (アルコールはありません)
- ◆場所：ならやまベースキャンプ
- ◆持ち物：お椀・コップ・箸など

今年も感謝祭として芋煮会を盛大に行います。ならやまで収穫できる野菜(里芋・大根・人参・牛蒡・椎茸)などを使った芋煮・大根焚きに加えて、佐保台小学校5年生と会員の皆さんが丹精込めた赤米と黒米のおにぎりも味わってください。特に、農園グループの皆さんが、春から夏にかけて除草・灌水・土入れなど、心を込めて管理をしてきた里芋。山形県最上川地区で室町時代から「一子相伝」の『甚五右工門芋』や『赤芽大吉』などをご賞味いただきたいと思います。とれとれの新鮮有機野菜たっぷりの芋煮です。また、じっくり炊き上げられた大根焚きは、ほくほくとした優しい味わいです。会員の皆様のご参加をお待ちしています。

問合せ：農園G 富井忠雄



- ◆会費：4,000円
(中味はお楽しみに)

- ◆申込先：塩本勝也

ドンドンお申し込みください。



